

第5回勝山市立中学校再編準備委員会 議事録

(1) 日 時：令和7年3月21日（金）19:00 より（勝山市教育会館 第1研修室）

(2) 参加者：準備委員17名（5名欠席）、事務局11名、報道2名、傍聴2名

(3) 内 容

1. 教育長あいさつ

2. 部会長あいさつ

3. 報告事項

①総務部会

②学校運営部会

③PTA部会

④施設整備部会

4. その他

勝山市中高一貫教育推進協議会からの報告

《教育長あいさつ》（省略）

《委員長あいさつ》（省略）

《報告事項》

（各専門部会の進捗状況について）

委員長 ・ではレジュメにしたがって会を進めたい。はじめに部会からの報告を事務局からお願いする。

①総務部会

事務局 ・事務局から各部会報告をさせていただく。それぞれの部会の報告の前に全体のことについて見ていただきたい。資料1をご覧ください。2ページにわたってあるが今年度開催させていただいたすべての会議、2ページ目には中高一貫教育推進協議会の会議状況もまとめさせていただいた。資料2をご覧ください。これまでやってきた内容、来年度考えている内容について一覧になっている。ゴシックで令和6年度からの継続事項は太文字で、斜めのゴシックでわかりにくいたとえば総務部会は校歌とか校旗は次年度やる内容になっている。学校運営部会では竣工式、閉校式、開校式、施設整備部会では移転計画になる。資料を参考にしながら各部会の報告をお願いしたい。

総務部会について報告をさせていただく。前回の準備委員会以降の取り組みということで資料3をご覧ください。1月17日に第3回総務部会を開催した。この中で

今年度の課題としていた校章選定のための児童・生徒のアンケート結果について協議いただいた。アンケート上は3番の案が賛同する子ども達の票が多かった。合わせてその他というところに約半数近くの中学生在が4つの案以外のものを求める意見が出た。その他の案は設定したものでないが中学校で子ども達の声にこたえるために独自にその他の項目を作って報告いただいた。そういった結果も鑑みてどうするか協議をした。この協議の結果、この4つの中から校章を選定することはせず。来年度再度校章の選定について継続的に協議を進めていくこととなった。ただお願いをしていることもあるので4つの案の中では3番目の案を採択させていただく。この案を納品していただいて校章とは別のスクールシンボルマークのような形で利用していくことで考えていきたいとなった。

委員長 ・ただいまの説明について質問があればお願いしたい。3案を納品していただくのに合わせて、その他特に中学生に4つ以外の声が多かったこともあって今の中学生はある意味新中学校では中学生ではないが当事者意識をもって自分事として考えてくれている。その思いを強く汲み取るべきだろうということで説明のあった形になった。特に意見がなければ第3回総務部会で決定した通り校章デザイン案については第3案を納品していただき、選定については方法や手順や対象者等は次年度改めて選定していきたいということによろしいか。

(頷き多数)

では、続けてお願いします。

②学校運営部会

事務局 ・校章については今ほど審議いただいたように進めていきたい。来年度はこの校章が決まったら校旗等の検討にも入りたいと思っている。校歌の選定についても次年度検討していきたい。次に学校運営部会の報告をする。資料がないので口頭になる。今年度は新中学校の学校指定物品を決め、12月5日に行われた入学生交流会、説明会を開催することができた。それに合わせて新制服につけるエンブレムの審査や新体操服のロゴマークやボタンデザインの審査をしていただいた。さらには中高連携カリキュラムおよび連携生徒の選考についても協議していただいた。次年度は、中高一貫教育推進協議会、教員による会議だがここの情報を共有しながら、引き続き検討していきたい。交流や連携の内容、教育課程や部活動の地域移行についてより具体的な協議を進めていきたいと考えている。合わせて令和8年度から令和9年度に係る竣工式、閉校式、開校式について見通しをつけていきたいと考えている。

委員長 ・ただいまの説明について質問があればお願いしたい。では、続いてPTA部会についてお願いします。

③PTA部会

事務局 ・PTA部会について報告をさせていただく。3月12日に第3回PTA部会を開催させていただいた。その中で話し合われた内容と資料になる。資料4-1をご覧ください。スクールバスについて12月にもこの表を出しているが基本的な考えは変わらない。どこが違うかというと括弧の中の中学生の数字が今までは住民基本台帳から拾っていたが現在の小4から小6の人数になっている。高校生の人数は想定になっている。

現在の中1から中3生が6割ぐらい勝高に進学したとしてさらに中学生と同じ割合で乗ったとした人数になっている。その次の数字は春にアンケートをとったが中学生の80%、高校生の30%が乗ったとする人数になっている。資料4-2をご覧ください。路線図になる。どの路線も30分程度と考えている。12ルートすべてが勝山駅、サンプラザ、福井勝山総合病院、ジオアリーナに停まる形になっている。色のついていバス停は生徒がいるだろうというバス停になる。一般の方や高校生も待っていれば乗せていく。資料4-3をご覧ください。上りのジオアリーナを見ていただくと7:50に3本が着く。7:55にも3本が着く。8:00には2本、8:05に2本、8:10に2本としている。1限目の開始を8:40と想定するとこの時間帯でしているので1限目には間に合うのではないかと設定した。その横の括弧は中学生がいるであろう最初のバス停からジオアリーナまでの乗車時間になっている。帰りの便は1便目を16:40発として16:55までの間に4ブロックで出る。戻ってきて2便目が18:30から18:45の間に出口になっている。あくまでもシミュレーションになる。資料4-4を合わせてご覧ください。バスが停車する場所を3ヶ所設けてある。野向線は①、荒土線は②、市街地循環線1は③として機械的に割り振ったものになっている。PTA部会では、18:30まで中学生が待っているのか、早く帰った方がいいのではないかなどの意見があった。これは高校生に少し配慮した時間になっている。資料4-5をご覧ください。実際の小4から小6までの人数を数えたものになる。徒歩生、バス通学生、自転車通学生を検討した。全校生は455人になる。徒歩生は1.5km未満として149人になる。残りは306名で全員乗れるバスを準備した。自転車通学をしなくてもいいことになるが天気の悪い時や冬の間だけバスを利用する生徒もいるのではないかとということ で考えた。3.0km以上の人はバスに乗っていただく。1.5kmから3.0kmの人は145人になるが希望者がいれば自転車通学を認めてもいいのではないかととなった。3.0km以遠の生徒でも乗りたいということで親の申請があれば認めてもいいのではないかとという意見もあった。最終的には中高一貫教育推進協議会の生徒支援部会で決めていってはどうかということだった。次に資料4-6をご覧ください。新中学校のPTA組織について現在の3中学校のPTA会長を中心に話し合っていた内容になる。ゴシックの部分が12月から変わった部分である。令和7年度の入学式で3年間分のPTA委員を選んでいただくことになっている。役員としては会長、副会長、監事の内規の案がある。委員会の数は学年委員会のほかに3つの委員会を持つてはどうか。地区委員会は準備をしておく。7年度、8年度と南部4名、中部4名、北部2名を入学式で選ぶという案で動いている。詳しいことは7年度中に検討していくことになっている。同窓会も12月に出した資料の通り進んでいる。次年度はスクールバスはルートや車両を決定していかななくてはいけない。それに伴う予算も必要になる。PTA組織や同窓会については会長を中心にさらに詳しく進めていく。

委員長 ・ただいまの説明について質問や確認したいことがあればお願いしたい。まずバスについてはいかがか。特にないか。PTA組織についてはどうか。PTA組織の会長副会長の決め方は当分の間か未来永劫このように決めるのか。一つの勝山市としての中学校になるのにいつまでも南、中、北と意識していくのか。軌道に乗ったら変えるのか。いつまでもする必要はあるのか。

事務局 ・事務局が決めるというよりもPTA会長を中心に決めていくので今はこういう案だと

いうことで規約等を決めたときに変わるかもしれない。

委員長 ・数年経って軌道に乗ったときに考えるということか。

事務局 ・そのようになると思う。それでよろしいか。

委員 1 ・それが望ましいかなと思う。

委員長 ・他になければ。

委員 2 ・P T A部会のやることで資料 2 になるが 26 同窓会の組織編成等々あるが同窓会が現在はあるが解散をするというか継続はしない。同窓会の意義というか新しく作らなくていいのではという意見があって、このように書いてあると次の委員が決めなくてはいいのかと思ってしまうのではないか。26 については令和 7 年の早いうちに決めて次のやるべきことをする方がいいと思うがいかがか。

事務局 ・1 から 32 までであるが最初に準備委員会を立ち上げたときの条例的なことがあって項目としてある。言われるように同窓会が決まったということであれば 12 のように【済】と書けばいいことになる。同窓会長が 3 名おられるので会長を中心に各中学校のことを決めていただければいい。

委員 3 ・どのタイミングで【済】をつければいいのかわからない。来年度決められるなら早いうちにした方がいい。

事務局 ・ありがとうございます。

委員長 ・他にどうぞ。

委員 4 ・役員決めについて意見をいただいた。小学校から地区で何人選ぶと習慣になっていた。今後考えていかないといけないと思ったのでありがとうございました。

委員長 ・他にいかがか。バスは大変だと思う。高校の再編で準備にかかわってスクールバスはいろいろなことを考えてしたことを思い出した。実際動き出すといろいろな点があるかと思う。いろんな観点で考えられるようにバスについても意見を出していただけたらと思う。次に施設整備部会について願います。

④施設整備部会

事務局 ・施設整備部会になる。令和 6 年度は 1 回だけの会だったが臨時の再編準備委員会に集まっていただいてご説明をしたりもした。その中で現状を報告させていただく。資料 5-1 をご覧いただきたい。左上は勝山高校第一体育館がリノベーション工事が完了したの様子となる。まず内観の写真で床は張り替えて壁面は県産の杉材を使った設えとなっている。照明は L E D 化で明るい体育館に生まれ変わった。ステージの方を少し縮小してバドミントンコートが 6 面を 8 面できるように改修している。その右側はステージの写真がある。ステージも一新した。ステージ下収納部分の台車を入れ替えている。台車の下の写真に機械のようなものがあるが暑さ対策の風だけを送る設備になる。この工事期間中、県は令和 9 年までに県立高校すべてに冷房設備を入れるということでこのエア乾燥機の近くに冷房が新しく入る。サーキュレーターの役目もあるので併用して効率よく冷暖房が効く形になるのではないかと考えている。その左側に

棚がある。男女それぞれの更衣室でそれぞれ 75 名分のロッカーを新しく備える。右下がトレーニングルームになる。長年空きスペースになったりスキー収納庫だったりしたがトレーニングルームに一新した。床にはクッション性のあるシートを張って空調や Wi-Fi の設備も設置している。中高生が明るい雰囲気です授業や部活に取り組む準備が着々と進んでいる。左側は工事の現状で左奥に玄関が見え右側が特別教室棟で高木はすべて撤去されている状況にある。左側は勝山高校の昇降口がなくなっている状況で基礎的なものの撤去が進められている。続いて仮設昇降口棟の解体工事が進んでいるが地下横断歩道建設工事は 9 月議会で継続審査になり 10 月 11 日に急遽再編準備委員会で皆さんに経緯を説明させていただいた。その後 12 月に地下横断歩道の契約の議決をいただいて着手している。校舎の方は 1 回目、2 回目と入札が中止になった。2 月 10 日に臨時議会を開いて予算を認めていただいた。2 億 3,000 万円あまりになる。内訳は建設工事だけではなくて物価の上がりの影響がある。物価や労務費が高騰していると考えていることもあって今回入札が中止になった。2 億 3,000 万円あまりを認めていただいたが実際どういった金額になるのか心配する人がいるが文部科学省の補助金が支給される。今回当初 43 億円が 2 億たして 45 億円となった。その中で市の負担がどうなるのかという声もあった。市の負担はもともと 14 億円あったが市債の採択を受けて実質 6 億 8,000 万減額になって 7 億円余りが出た形になる。その辺も含めて市議会に説明させていただいて認めていただいて進んでいる。今回 3 回目の入札を行なって開札で落札をした。本日の定例会で議案の採択をいただいた。資料 5-2 をご覧いただきたい。現在の工事とこれからの工事の説明をさせていただく。この図面は上が北方面、右側が国道が走っていて真ん中に勝高の敷地がある。まず左側の黄色い仮設昇降口棟工事とある。こちらは豊栄建設が受注をしていて進んでいる。グラウンド側には仮設の敷き鉄板を敷いて工事をしている。真ん中の解体工事はグリーン開発が受注し進んでいる。その右側の緑色の部分の築山撤去もグリーン開発がしている。校舎建設工事は今回株式会社熊谷組福井営業所、大北久保建設株式会社、椿山電機株式会社、株式会社シマキ工業、特定の J V 建設工事共同体が受注していただいた。その右側の紫色の部分、給食室の工事発注を令和 7 年度に予定している。以上が校舎のおおむねの現状とこれからの予定になっている。地下横断歩道関係について、国道を横断するような形で赤色で地下横断歩道建設工事（国道側ボックスカルバート）と書いてある。こちらが豊栄建設と坪内建設の J V で受注している。その右側、ジオアリーナの地下横断歩道付帯工事は荒鹿建設が受注している。そしてエメラルドグリーン地下横断歩道建設工事（公園側現場打・上屋）とあるが令和 7 年度に発注予定になっている。今回臨時会で 3 つの横断歩道を含めた関連工事を認めていただいた。その一つの駐車場拡幅工事はバスの乗降場になるところを拡幅して安全を確保するための工事だが認めていただいた。これは令和 7 年発注になる。そして国道沿いに破線上にある上水道移設工事は国道の下に上水道の本管があるので今回増額として認めていただいた工事になる。その上、茶色の地下埋設物等移設補償は北陸電力や N T T の幹線があるのでこちらの補償ということでこちらも 2 月の臨時会で認めていただいた。地下横断歩道全体を紫色で囲んでいるが地下横断歩道建設工事の内装・電気工事の令和 8 年発注を予定している。上の方の黄色い部分で築山があるところの法面をブロック積工事をするというので広場拡幅工事として令和 8 年に発注予定である。こちらも 2 月の臨時会で認めていただいた。一番最後に水色で 3 つの県の工事がある。まず第一体育館のリノベーション工事で先ほど説明をした。次に北側の特別教室棟工事が令和 7

年から令和8年に実施される。さらに一番下の元市営体育館跡地は勝高寮建設工事でプロポーザルで業者が決まってデザインビルドということで設計施工で実施する。こういった複合的に敷地内でさまざまな工事が今後発注予定もあるし進んでいる工事もある。これらの進捗も踏まえながら進めていきたい。さらに来年度はこの工事と合わせて学校図書や備品の精査を継続して行なっていく。3中学校の歴史も含めた、何を新中学校に持っていくのかも今後精査していきたいと考えている。

委員長 ・ただいまの説明について質問等あればお願いしたい。よろしいか。

委員1 ・セキュリティの話で外部侵入者に対して対策ができているのかを確認させてほしい。地震ではないが何がしかのことが起きた時に保護者への引き渡しの動線のシミュレーションを考えているのか。

事務局 ・完成したときのセキュリティの話として校舎にはインターホン設備が備わっているの
で玄関先でも誰が来たのか確認しながら安全に対応していきたい。地下横断歩道につ
いてはセキュリティの関係はカード式で自動ドアが開くような仕組みを考えている。
防犯対策としてカメラを設けていきたい。安全面に対してはしっかり考えていきたい。

事務局 ・避難というときの動線ということだが今はそこまでの具体的な協議はしていない。後
ほど説明があると思うが先生方の会議の中で学校生活の中でのルールとかを話してい
ただき決めていくことになると思う。

委員2 ・高校と中学が同じ敷地内にいるということで一度に迎えに来ると混雑してしまう。物
理的なところも加味して検討していただけるといいと思う。

部会長 ・これだけの大きな工事が進んでいくので、保護者の方が職員として関わることも多い
のではないかな。もし可能であれば工事の様子の写真を一日一日とか定期的に撮ってア
プリで簡単に動画にすることもできる。進捗状況を説明会とか何かのタイミングで披
露していただくと家庭での話題の一つになるのではないかな。工事の様子を出来るだけ
子ども達に公開していくことも考えていただけるといい。

事務局 ・工事の進捗を含めた情報の公開は今も少しずつ地下横断歩道関連とか現状部分などH
Pで公表している。定点のタイムラックス的な観測だとどういうふうに施設が出来あ
がっていくのかわかりやすくなる。受注業者が決まったばかりなのでどのように公開
できるか検討していきたい。

委員長 ・他はいかがか。よく似たことを考えていた。工事に関わっていただいた方のメッセー
ジとか使う中学生のメッセージをとっておいていただいて将来的にQRなどで見るこ
とができるといいのではないかな。働いた全員の方というすごい数になる。これから
工事に入るところはいいが、やがて終わってしまう工事のところとか、本当は働いた
方全員の方のものがあるといいが検討していただけるといい。

事務局 ・その辺も含めて検討させていただきたい。

委員長 ・今すぐではないが出来あがった後、生徒たちが入る前にぜひ内覧会というか中学生だ
けでなくて市民にもどんな学校ができたのか見ていただく日があるといいのではない
かな。

事務局 ・これほど大規模な工事は勝山市ではない。中間の説明会も検討していきたい。もちろん完成の前には市民の方も内覧会とか地域に開かれた学校ということで含めて皆さんに来ていただきたい。

委員長 ・他にいかがか。次はその他、推進協議会からの報告をお願いします。

事務局 ・資料6をご覧ください。再編準備委員会の方は学校を造る骨格のような部分、基本的な制度的なもの、構造的なものを協議いただく会で、この協議会の方は実際に先生方の立場で学校をどのように運営していくかを協議していただく組織である。特に中高が連携をする事についてはこれまでにない取り組みになるので中学校と高校の先生がまず顔を合わせる場所から始めている。どういう内容で協議しているのかを共有していただければと思う。まず去年の11月末にこの中高一貫教育推進協議会を立ち上げた。会則や委員や組織のあり方については資料の最後の方に書いてある。そこを協議いただき認めていただいた形で協議会をスタートした。2ページ目をご覧ください。清川委員長の方から再三この目標を見失わずとご指導をいただいているが基本計画の中で掲げた目指す学校像、目指す生徒像を最初に書いてある。特に中高一貫教育の目標としては子ども達のより確かな学力を育成するとともに生徒一人ひとりの個性や創造性を伸ばすために連携をする、あるいは中高生の交流、教職員の連携により、中高の学校教育の活性化を図るという思いで連携を進める。3ページ目になるがこれまでに行った協議会の内容になる。11月に立ち上げて以来短い期間だったが、6つの部会が1回から2回の会を開いてまずは中学校と高校の担当の先生が顔を合わせる場所から始めた。以下は6つの部会でどんな内容を協議しているのかを議事録形式であげた。

まず教育課程部会、教務主任の先生で学校の予定等を決める担当の先生だが中高で合同で今年度取り組んだ内容について来年度どうするのかを協議した。特に勝山高校が探究の発表として学びの祭典とかラウンドテーブルをしているがこれについて次年度どうするのか、あるいは高校生が中学校を訪問して学校生活の様子について話をしてもらうことについてどのような学年でいつ頃がいいのかを協議いただいた。具体的なものとして校時表をどうするのかを協議している。普通の連携型の一貫校だと中学校、高校ばらばらに独自性をたもってするのだが勝山の場合は教室を共有するので時間割をある程度合わせないと教室がバッティングしてしまう。放送はどうするのか、チャイムはどちらが鳴らすのか、授業は50分だが昼に関して高校は弁当を食べて昼休みになるが中学校は給食になるので時間のとり方をどうするのか。まだ1、2回の会議なので次年度協議しないといけないことが話題になった。また1時間目の始業時間はバスとも関係があって8時40分に1時間目を始めるということで了解をいただいた。扉は何時に開けるのか、高校は守衛の方がいるので早く来ても入ることができる。中学校はそういうシステムではなく7時40分より早く来ても鍵が開いていない。このあたりをどうそろえていくのか。細かな話だが学校運営上、先生方が子ども達の生活の様子をイメージしながらどうそろえていくかの議論を始めた。

次に生徒支援部になる。生徒指導主事という先生方に集まっていただいて学校の生活上のルールについて協議をしていただく。特に部活動について話題になり部活動の場所が確保できるのかを協議した。バドミントンはジオアリーナですべてできるかと事務局は想定していたが社会体育との関係で占有できるわけではないということで調

整をしないと中学生が入るには窮屈になるという意見があった。合わせて検討していくことが必要になる。通学方法についてPTA部会のところとよく似た意見が出ていた。6ページ目の下の方だがジオアリーナにバスが入ってきて送迎の子ども達が歩いていくとバスと歩く子ども達の動線が重ならないか、安全確保に注意しないといけない、どこでバスを待つのか、校舎の中やジオアリーナで待っていても来たかどうかわからないうちに行ってしまうことにならないようにしないといけないという話も出た。1.5km 以遠はバスならば全部をバスにして自転車を認めなくてもいいのではないかと、認めるとすれば遠方は危険だから認めない方がいい、バスに乗り遅れた場合公衆電話はあるのか、携帯の持ち込みはどうするのかなどさまざまなことを考えていかないといけない。また中高生の校舎の使い方として自動販売機があるが中学生が使ってもいいことにするのか、中高生が占有する場所は制限する必要がある、用事もないのに行くことはないなどの意見も出た。あるいは遅刻した生徒は今は高校だと端の扉から入って行って報告をして入るが中学生は職員玄関からインターホンで開けてもらっている。このあたりをどのように整合していくといいのか。このようなことが話題になっている。

次に8ページ目の進路支援部会になる。進路指導と将来をどのように描いてそれに向けて自分の力を蓄積していくかという部分だが、一つはキャリア教育として各学校がどのようなことをしているのかの共有をした。勝山市の場合は小学校でふるさと教育に大変力を入れているがキャリア教育ととらえて地域に貢献する自己有用感を積み上げていくことが重要ではないかと県教委から指導を受けながら考えた。特に今年の勝山高校の3年生が探究特進科ができた第一期生として卒業した。多くの生徒が難関大学や国公立大学に進学した。その生徒の多くが探究学習で取り組んだテーマと関係のある進路を選んだ。たとえば薬のことを勉強していた生徒が薬学部に進んでいる。介護のことを勉強していた生徒が看護学校に進んでいる。探究学習が単に勉強だけで終わるのではなくて進路にかかわってきている。ふるさと学習から自分の進路選択まで含めて一つのキャリア教育として6年間、あるいは12年間を通じて成果を蓄積していくことが重要だと議論の中で感じた。

次に9ページ目の終わりから10ページ目にかけて英語と数学部会になる。この二つの教科部会についてはそれぞれの担当の先生が6年間を見据えて中高で一緒に教育ができるとするとどんなことができるか建設的にいろいろな展望を語っていただいている。英語ではALTという外国人の先生が中学校にも高校にもおられるのでうまく使えば多くの英語の環境ができる、高校生は英語でディベートをしているが中学生も見ることが作れないか、中高で英検とかGTECとかの検定試験を一つの指標にして中高で育てていくという意見が出ている。数学の方では数学オリンピックとか理数グランプリに中高が力を合わせて取り組んではどうか、高校の先生がTTで入っていただくことがあれば中学生の中でも基礎力が必要な生徒と発展的な学習に取り組む生徒の習熟度別クラスに分けて発展的な学習に取り組む生徒には高校の勉強にこのようにつながっていくということもあると関心がわくのではないかと、基本的な考え方として数学の問題を解くにも文が読めないとい解けない。問題文が非常に難しくなっていて読解力が必要になる。こういった力をつけていく必要があるのではないかとということが協議された。

最後は探究部会になる。探究部会には勝山高校のアドバイザーとして楽しい学校コンサルタント second の先生も入っていただいてアドバイスを受けながら進めてきた。特に中学校と高校を合わせてどういう力をつけていくといいと考えればいいのか、粘り強くあきらめないでやっていく力とか、疑問を感じて調べていこうとする意欲的な態度とかお互いに共有できるといい。それぞれの力に対して生徒がどの段階にいるのかわかるような表を作っていくと中学校でも高校でもこの段階にいるからもう少し頑張ろうとか、この辺を伸ばしていこうとできるといい。先進校として国内の取り組みを参考にして今から取りかかろうというところで会は終わっている。

15 ページ目をご覧ください。来年度考えている内容になる。中高連携と3中学校があるので中中連携としている。教育課程部会については合同行事をどうしていくか、年間計画をどうしていくか、前例踏襲にとらわれないで新しい視点で学校行事を考えていくことが必要ではないか。校時表について精査していく必要がある。中中連携でいうと新1年生の修学旅行をどうするのか早急に決めなくてはいけない。つまり2年生の時にするのか一緒になった3年生の時にするのか。進路に関しては連携型の中高一貫教育をする場合は簡便な入試という学力試験にとらわれずに中学生が連携高校に行ける制度を取り入れることができるとなっている。こういった生徒をその対象としてどのようなシステムで高校につなぐのかという接続の話については県教委も含めて早急に決めていく必要がある。合わせて連携プログラムとして入試の代わりに集中して取り組むプログラムをどう組んでいくのかということが必要だと考えている。生徒支援部会については通学路とか通学方法とかスクールバス、生活ルール等を考える必要があるし、中中連携では生徒会組織をどうくっつけるのか、部活動をどのように編成していくのかも考える必要がある。探究部会については6年間を見通した探究カリキュラムをどう作っていくかということ、英語、数学部会についてはどのように授業をつないでいくのか、どのようなT T 支援をしていくのかを考える必要がある。大変長くなったが以上のような会議を踏まえて昨日第2回の協議会を終えて次年度もさらに今年の取り組みを踏まえて協議を進めようと確認をした。

委員長 ・非常に多い資料を説明していただいたが何か質問があればどうぞ。

委員1 ・今年の1年生が中高一貫になるのか。その子たちはそれを知っているのか。

事務局 ・12月5日に全体の説明会をした。今度は入ってくる中学校1年生の子が新中学校の3年生、第1回の卒業生になる。説明会で1、2年生の時はそれぞれの中学校だが3年生になったときはこのようになる。

委員2 ・中学生ではなくて高校生、高校1年生にはちゃんと周知しているのか。遠くから来ている子もいる。

事務局 ・3年生を含めてグループワークをしたりいろいろな形で子ども達の見解は吸い上げている。たとえばエンブレムを決めるとか、中学校3年生までですべての協議に加わってもらっている。

委員3 ・今の中学生はいいが遠くから入学する子もいる。その子たちから今度中学生がといわれることはないのか。入学前に説明をしているのか。

事務局 ・この4月に市外から勝山高校に入学する生徒に関しては他の地区の生徒なので周知は

していない。入学後に説明をさせていただきたい。

委員 4 ・ キャリア教育について今の小学生がふるさと教育をフォーカスして地元を愛している教育していく中で高校までつながっていくというイメージはわいた。大人が否定しないか心配である。せっかく子ども達が自分達の勝山を調べてわくわくして大人に言ったときに「人少ないで年寄りしかえんざ」と田舎特有のマイナスなことを言いかねない。そうすると自己肯定感の話があったが打ち碎かれるだろう。せっかく真面目にやってすごく信頼してやってきた学生生活が社会に出ると打ち碎かれることはよくある。そこは怖いなあと思っている。キャリア教育をしていく中で地域の大人に発声して行って町全体で子ども達を教育していくのであれば大人にも責任は必要だと市民に周知しないとイケない。子ども達に全部させるというのはナンセンス。そういうことが取り組みとしてあるといい。特別に何かをするのではなくて市民のところにも責任があるということのをうまく表現できるといい。

事務局 ・ これをじっくり読むと気づかれると思うが探究部会の話の中で大人や関係者から子ども達の活動に対していろいろな意見が返ってくるのが重要だという話題になったときにアドバイザーの先生が、低学年とか小さなお子さんに対しては賛同的に「いいね、がんばっているね、いっしょにがんばるよ」みたいなメッセージがいいが、ある一定の年齢になってきたら否定的な意見もいわゆるワクチンとして効く。当然大人になったときに提案をして否定されるとすぐにつぶれてしまうのでは強くなれない。半分ほめてもらいながらここが課題だとかこういったことが問題だという否定的な意見も子ども達にとっては大事だというアドバイスをいただいた。あまり小さい子に「勝山なんか」と言われるのは困るが、中学生や高校生になったときに「それだけでは勝山はかわらんよ」という意見を言うていただくのも大事なかなと思う。いずれにしても提案いただいたようにみんなで育てていこうという意識を持てただけは大変ありがたいことだと感じている。

委員長 ・ 自分で受けてきた教育しか知らない。そこを基準に考えるのでそれと違うとよくないと思う。バイアスがかかっている言い方をする人もいる。これから求められる教育についていろいろな情報提供とか教育が変わっているということを併せてお知らせしていくことが大事かと思う。

委員 5 ・ 勝山市の中高一貫教育を進めている中で水を差してしまう意見かもしれないが子ども達の中にはみんながみんな中学校から高校に進みたいばかりではない子も出てくるのではないかな。環境を変えてみたいとかもっと違うことを学びたいと思う子ども達もフォローしていただけるような学校だと親としては安心かと思う。

事務局 ・ まず大前提として連携型の中高一貫教育については中学校卒業時点で勝山高校にいかなくてはいけないものではない。選択は自由にできる。昨日の協議会の中で勝高に行くとなると今までの人間関係をそのまま引きずって上がっていくわけで中にはそれに耐えられないという子がいたり勝山高校の受け皿として従来の勝山高校の考え方だけでは受け入れきれないこともあるかもしれない。そういうことを考えていく必要があると発言された。これからどんどん子ども達が減っていくわけで極力たくさんの子ども達に勝山高校に進学してほしいとなると受け皿側の方もここに合う人しか入れませんというわけにはいかない部分も出てくると思う。そのあたりについても協議してい

く必要があるかと考えている。

委員長 ・大事な意見だと思う。他にはどうか。

委員 6 ・ 9 ページのところに「先日データをとったところ、進路決定に大きな影響を与えているのは保護者の言葉と答える生徒が最も多かった。残念ながら先生の指導は下位の方である自分で進路をきめることができていないようである。」という内容だが詳しく教えてほしい。

事務局 ・ 各学校は 1 年生からどのような進路が いいかを積み上げてくる。親御さんとも面談をしていろいろなことを進めながらこの学校にするということを決めていくが、特色選抜で部活動にさそわれるとそれまでの協議とは別に「それならそっちに行きます。」という選択をしてしまう。今までの指導は何だったのかということがあって子どもが本当に納得できる指導をしていく必要があると話をした。親御さんが「こっちがいい」というと「はいはい」と行ってしまうことが多いようである。学校の先生の指導の効果は比較的順位が低いというアンケート結果が出ているという内容。小さな学年のときから先々を見据えてどんな人生を描いていくのか、高校 3 年間でどうするのかということもあるが自分たちの将来をどうするのかを早くから子ども達にきちんと落ちる形で指導していくことが必要ではないかという議論があった。

委員 7 ・ ぜひ中学校で踏まえていただけるといい。

委員長 ・ 他にはどうか。感想になるが中学校の先生方の発言が縛りすぎているというかコントロールしすぎている。最初はそうかもしれないがいずれ目指す生徒像の 2 番目にある主体的に考えて行動する生徒。自分達で考え進んでいく。安心安全の部分は絶対保障しないといけませんがそれ以外の判断については子ども達に考えさせる。一例だが小中併設校では 45 分と 50 分だったのでその学校はチャイムなしだった。小 1 も時計を見ながら行動していて行動できないのは異動でやってきた大人、教員だけだった。チャイムが鳴らないと時間になっても職員室にいたりする。子ども達はすんなりとチャイムなしでも動いていた。教員がチャイムが鳴らないと動くことができない。ジオアリーナが使えないという話があったが奥越特別支援学校の体育館は使えるといいと思う。の支援に入っていて個人探究をしている学校とグループでやっている学校がある。成果の話があったが探究は自分で仮説を立ててアクションをしてリフレクションをする OECD がいう AAR サイクルである。そこをいかに回したのか身に付けたかを問うのであって大学の定員の半分以上はペーパーテスト以外の定員が増えてきている。君は高校で何をしてきたのかを語る時代になってきている。グループでも個人でも成果発表の時に何をしてきたのかを語るようなそういう場を設定していく。探究はプロセスを大事にすることをしてもらいたい。他に質問はないか。

今日は今年度最後の会ということで皆さんから一言ずついただければと思う年間を振り返っての意見ということでまず学校の立場から願います。

委員 8 ・ 一年間携わらせていただいてみんなでいい学校を作っていこうとすることが大事だと思った。何回も何回も議論を重ねてやっていく、絶対いい学校ができるだろう、いい学校にしたいと思った。小学校を卒業する子が令和 9 年度に中学校 3 年生になるということで子ども達もこんな学校いいな、早く入りたいととてもわくわくしている。今

年一年関わったことが自分にとってよかったと思う。みんなが自分事として市民みんなが考えてくださるといいと思う。みんなの意見を聞きながらやっていく。時間はかかるがとても大事なことだなと感じた。ありがとうございました。

委員 9 ・一年間やってきて校舎のこととかを考えていると、中学校は縛りが多すぎるのではないかという話があったが、どうしても心配なことが先に立ってしまったと振り返っていた。バスのことについて保護者の方が非常に熱心にそれぞれの立場で話されている、一番気になるところを話されると感じた。中身のことに入ってきたので教育の中身について頑張っているって聞いていけないといい学校ができない、せつかく入れ物がきちんとできて中身が伴わないとダメだなと改めて自覚をさせていただいた。ありがとうございました。

委員長 ・続いて P T A の方から願います。

委員 10 ・子どもの声を聞いていく。今年の高校 1 年生、来年の高校 1 年生、この先合併していくであろう子ども達の意見もしっかり聞いてもらえると部活などで一緒になるのは、いやという子もいるかもしれないし、高校の子たちにも話を聞いてもらって進んでいい学校になるといいなと思っている。よろしく願いたい。

委員 11 ・小中の家庭には通信で案内をいただく形で情報を共有していただくことになっている。非常にありがたいと思っている。一般の方には情報が伝わっていかないのでその配慮があってもいいと思うので願いたい。子どもを持つ親として将来どうなっていくのか、子どもを預けたいと思う学校に他人事ではなく自分たちがよくする学校のためにどう関われるのか考えないといけないと感じている。ありがとうございました。

委員 12 ・今年初めて委員をさせていただいた。自分の中の反省として保護者の皆さんのいろいろな意見を吸い上げて持ってこれるとよかった。実際、中学校再編の話を地区で話したりするとこうしてほしいとかここはどうなっているのかという声を聞く。これからは参加する機会があれば意見一つでもいいので保護者がこういう思いをしているということを持ってこれるといいと思っている。ありがとうございました。

委員 13 ・今年一年ありがとうございました。この話は非常に大事でいろいろな方に周知していただくのは必要かと思う。終わりが決まっているので議論は尽くさないといけない。そのうちの一年目で参加させていただいた。役員に周知したときに他人事だったけど他人事ではなくなったという意見が出てきた。各小学校や地区で周知しているものの他人事としてとらえていることがわかった。立場上いろいろな会合に行っているのもこの話をわかっているかと聞くことがある。やはり知らない。ここに聞いたらいいではなくて再編委員としている以上、決まっているのはこれだ、決まっていないのはこれだ、これはここに聞いたらと来年も橋渡しができた方がいい。勝山市民が関心ごととしてモチベーションが高い状態でいけるように努力していきたい。

委員 14 ・一年間ありがとうございました。私は今年度で終了させていただく。今までは子どもが入る側の立場で考えさせていただいたが子どもが勝高にお世話になることになった。受ける側の立場になるので再編準備委員会で意見交換等をやっていたということを保護者に伝えられるといいかなと思っている。

委員 15 ・一年間ありがとうございました。本日最後の準備委員会ということで中高一貫教育推

進協議会の報告を見たが本当にたくさんのことを先生方が話し合っていて、
ことを知ってびっくりした。皆さんも言われたが親だけではなくて市民の皆さんが新
しい中学校ができるのでいい中学校にしていこうという意識がたくさん広がればいい
と思う。今年卒業式に参加したときに新しい中学校の制服を着ている6年生がいてす
ごくかわいくてその姿を見ると市民の意識も変わってくるかと思った。

委員 16 ・一年間ありがとうございました。PTA部会ではもう少ししゃべったと思う。卒業式
に出たときに教育委員会からあなたたちが新中学校の第一期生だと言われた。自分の
子が新中学校1年生になるので行くところだと思ってこの会にも参加していた。工事
も安全に気を付けてお願いしたい。

委員 17 ・一年間ありがとうございました。自分の子も令和9年度の第一期生として入学する。
すごく楽しみにしているしこれだけ多くの方が意見を出し合って苦勞されて多大なる
お金をかけて建てる校舎になる。来年はPTAを去るが何かで協力できたらと思うの
でよろしくお願いしたい。

委員 18 ・一年間ありがとうございました。最初にこの委員会へ女性の意見も聞きたいというこ
とで声をかけていただいた。そうそうたるメンバーの方の中で間違いではないかと思
ってドキドキしながら何か一つでも意見を出し合おうと言わせていただいた。こんな
意見でも貴重な意見だと言わせていただいた。たくさんここで学ばせていただいている
中で自分の子どもも新しい中学校に入る子どもになるが自分達で作っていくんだとい
う意識が委員会に参加する中で芽生えたところもある。それをどんな形であれいろい
ろな方に声をかけながらみんなで作り上げるいい中学校にしていきたいと思っている。

委員 19 ・PTA部会に主に参加させていただいた。よく考えられていると思って参加してい
た。これからも協力できることをしていけたらと思う。ありがとうございました。

委員長 ・では関係団体からお願いしたい。

委員 20 ・一年間この会に参加させていただいて事務局に見えていろいろ言われる。その人、そ
の人の立場で一面的な部分をとらえて意見されていることがほとんどでその意見を代
表してくるのは非常に困難で無理だ。細かい事柄について会を重ねて検討してこられ
た内容は非常に大事かと思う。こういうことをあまり知らないでごく一部だけをとら
えて問題じゃないかという。賛成だとかいいねという人は寄ってこない。何か言いた
い人が寄ってくるがその意見はまとまらない。参加させてもらって細かい点までシビ
アにいい学校を作ろうと思って話し合っている。自分自身もそれまではある意味偏っ
た見かたをしていたかもしれないが非常によかったと思う。これからは学校再編につ
いて周りの人たちに理解を求めるような話をしていきたいと思っている。最後になる
がどうもありがとうございました。

委員 21 ・まず中学校が建つことになってよかった。途中いろいろとあったのでどうなるのか心
配していた。間違いなく建つので中身のことについていろいろと議論があるのかと思
う。一つだけ言わせてもらおうと会議がもう少し短くなるといい。さすがに2時間にな
ると体力的につらくなってきた。何もない時は早く終わってほしいなと思っている。

委員長 ・では部会長にお願いします。

部会長 ・委員の皆様一年間本当にありがとうございました。PTA部会としては毎年PTA会長に非常に闊達なご意見をいただいていたが特に今年度に入ってから毎回会議で大量の資料を提出させていただいて議論していただいた。内容がだんだん具体化されてきて理解しやすい内容になってきたということでもあると思う。それに伴って特に今年のPTAの会長の皆様には本当に闊達なご意見をいただいて、2時間が短いと思ったぐらいだ。その中でまとめるのも大変な思いをしたこともあったが真剣に考えてご意見をいただいているということで自分自身も勉強になったし中学校をさらによくしていきたいという思いをさらにした。今年いただいた意見や宿題もある。来年度にしっかり引き継いでPTA部会でさらに議論を深めていきたい。PTA組織については部会の方で云々ということではないが各3中学校のPTA会長及び市P連の中でご議論いただいたと聞いている。来年も次の会長に説明してよりよいものにしていきたい。同窓会についても会長に説明する中で結論を出す形になろうかと思う。皆さんの貴重な意見を次の部会に持っていきたい。一方今年の勝山高校の志願者数に衝撃を受けている。中高一貫の中で中学校だけではなく勝山高校の方も同じように素晴らしい高校になっていけるように議論を進めていきたい。ぜひ皆様のご意見をいただきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いしたい。

部会長 ・委員の皆様、事務局の皆様、委員長ありがとうございました。いよいよ来年度から工事が始まっていく。施設部会としては建物自体が教材だと考えていて中学校が新しく作られるという人生で一回の大きなことだと思う。子ども達にこうやって作っていくかを伝えたり工事に関わる方も勝山にいるかと思うのでどういう思いで作っているのかを残していけたりできたらと思う。これまで使っていた中学校の既存の使い方をこういう形で残したいとかどういう備品を持ち込むかを部会で話し合うと思うのでこれまで使っていたものとこれから作るものについて来年度考えていきたい。皆さんのお力をたくさんいただくと思うので来年度もよろしくお願いしたい。

委員長 ・最後に私から本当にこの一年間皆さんありがとうございました。いろいろな意見を出していただいた。この3月をもってこの会から卒業される方、引き続きOBとしていろいろな意見を出すことを続けていただけたらと思う。部屋に入ることはないかもしれないが事務局でも私にでも届けていただけたらと思うのでどうぞよろしくお願いしたい。4月にまた言うかもしれないが教育は以前は協同（コーポレーション）と言われた。これからは共創（クリエイション）がキーワードである。まさしくこの場も共創になってきているのかとを感じる。引き続き協同だけではなく共創していいものを創るようにしていきたい。自分事とか他人事とかという声もあったしいい言葉がたくさんあって貴重な話だった。開校に向けて私も頑張りたいと思うのでよろしくお願いしたい。では事務局にお返しする。

事務局 ・皆さん本当にありがとうございました。本日もたくさんご意見をいただいたしご指摘、ご要望などを毎回たくさんいただいて事務局も一生懸命頑張りたいと思う気持ちで毎回やってきた。あと開校まで2年となった。ギヤをあげて全力でやっていかないといけないという気持ちを新たにしたい。今後ともお世話になる方、ここから出られる方もおられるがこれからもお力をお貸しいただければと思う。一年間本当にありがとうございました。以上で本日の会議は終了とさせていただきます。本日はお忙しい中、ありがとうございました。

資料１．令和６年度勝山市立中学校再編準備委員会の進捗について

資料２．令和７年度再編準備委員会（専門部会）検討・協議事項（案）

資料３．校章の選定のための児童・生徒投票結果

資料４－１．スクールバス通学について（案）

資料４－２．スクールバス路線図（案）

資料４－３．スクールバス発着時刻一覧（案）

資料４－４．スクールバス停車位置イメージ（案）

資料４－５．スクールバス利用人数予測（案）

資料４－６．ＰＴＡ部会に係る第３回打合せ会の概要

資料５－１．勝山中学校建設現場の状況

資料５－２．勝山市立中学校校舎工事概要図

資料６．令和６年度勝山市中高一貫教育推進協議会 協議のまとめ